



保護者による「学校評価」について②

校長 中村 行雄

前号に引き続き、学校評価についてとなります。

評価について

A : 大変よかったです B : よかったです C : あまりよくなかったです D : よくなかったです

昨年度の評価との比較



向上



やや向上



ほぼ同じ



やや低下



低下

13 学校は、児童の問題行動やトラブルに対して迅速に対応し、解決を図っている。

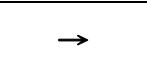


A : 31.6% B : 63.8% C : 3.9% D : 0.7%

・記述なし

■児童に問題行動やトラブルが起きた場合、「即時速対応」を原則として、「即事実確認、保護者連絡」に努めています。ただし、問題やトラブルの解決は急がないようにしています。保護者とも十分に相談をして、何がいけなかったのかなど、自分自身の行動を見つめ、同じ過ちを繰り返さないように丁寧に指導をしていきます。解決するまでに時間がかかる場合もありますが、自分を見つめる機会がなく謝罪し、形だけの解決を図ることは同じ過ちを繰り返すことになります。丁寧に、粘り強く、慎重に児童の健全な成長を促す指導を心がけております。

14 学校は、対話的な学習、体験的な学習を重視し、児童に感動ある学習活動を行っている。



A : 28.4% B : 69.0% C : 2.6% D : 0.0%

・記述なし

■教科の授業では、児童が自分の考えを表現することを重点のひとつとして取り組んできました。互いに考えを交流し合うことで、新しい考え方方に触れたり異なる見方に気付いたりしながら、自身の考えをさらに広めたり深めたりする過程を大切にしてきました。本年度6年生を対象に行われた調査では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか。」という質問に対して、約92%の児童が肯定的な回答をしました。これは、岐阜県や全国と比較して10ポイント以上高い割合となっています。

■1年生と2年生の生活科や3年生以上の総合的な学習の時間では、人との関わりを大切にした学習を進めてきました。1年生と2年生は、生活科で作った作品を使って学年間だけではなく、幼稚園児とも交流をしました。3年生以上では、地域の方をはじめとし

た外部の方からお話を聞く機会を設けました。このように、人とふれ合うことを通して学習を進めることで、人から学び、人と関わるよさを児童は実感し、感動につながることを願ってきました。

15 学校は、全ての教育活動を通して、確かな人権意識を身に付けさせる人権教育を行っている。



A : 23.2% B : 71.6% C : 4.5% D : 0.6%

・記述なし

■学校での人権教育は、自分も他人も同じようにかけがえのない存在であるという人権意識を育て、それを実際の行動につなげることをねらいとしています。南小学校では、人権週間や人権集会などの行事としての活動だけではなく、お昼の放送で児童の生活委員会による良い姿の紹介や、帰りの会の学級ごとの良さ見つけなど、日常的に人権教育の活動を行っています。さらに、縦割り集団による「南遊び」やエンカウンター、総合的な学習の時間の福祉体験やボランティア活動などを通して人権意識の向上と実践的な行動力の育成を目指しています。来年度も、教科指導をはじめ全ての教育活動で人権教育を充実させていきます。

16 学校は、発達段階に応じた成長を促すため、運動会等の行事や特別活動を工夫し実施している。



A : 34.2% B : 6.13% C : 3.9% D : 0.6%

・運動会の最後の応援合戦や、選手リレーなど前のようにあって欲しいです。どんどん縮小していくのは悲しいです。

■運動会の教育的な意味は、集団の中での役割と責任を自覚し、仲間と協働することの難しさと喜びを体験することを通して、児童に困難なことを乗り越える力を育成することにあると考えています。その視点から本年度は応援合戦から全校種目の8の字跳びに変更をしました。応援合戦と学級で取り組む8の字跳びの大きな違いは、一人一人がその役割と責任を果たす度合いの差にあります。8の字跳びの方が一人一人の役割と責任が強調される種目であると判断しました。また、コロナ禍の影響により児童の体力、運動能力の低下が課題となっている状況も踏まえ、一人一人がより運動に慣れ親しむ機会を拡大するためにも取り入れました。リーダー育成に関しては、応援合戦と同様に団リーダーが自分の団に所属する学級を指導するなどの機会を設け、活躍の場としました。以上のような理由により、本年度から応援合戦を全校種目の8の字跳びに変更をしましたので、ご理解をお願いします。

■選手リレーの廃止については、走るのが速い児童もそうでない児童も、全員が役割と責任を果たすために全力で取り組むことを大切にしました。そのために、各学年でリレーを実施しています。中学年以上のリレーでは、各チームで作戦を考え、走るのが速い児童もそうでない児童も全員が活躍できるようにしています。また、南小学校では、練習期間から運動会当日も含めた熱中症対策や児童への過度な負担とならないように配慮することから、午前中開催としています。限られた時間の中で、全ての児童の出番を確保し、各種目を丁寧に行うためにも選手リレーを行っておりません。南小学校の全ての児童が自分が主役の運動会にするための判断です。ご理解をお願いします。

17 学校は、学校報「南校だより」や学級学年通信、ホームページなどを通して、家庭や地域に学校の様子や情報を伝えている。

→

A : 25.8% B : 67.1% C : 7.1% D : 0.0%

- ・数年前は南小学校のホームページの写真を見るのが楽しみだったけど、今は頻度も落ちて枚数も少なくてあまり見ようと思わなくなつたことが残念です。
- ・もっとホームページで子供達の様子が見たかったです。
- ・ホームページの中で年間行事と学校全体の行事は更新されていたが、学年行事や普段の授業風景が昨年度と比べて更新が少ない。また、給食メニューのバーをクリックしても表示されないというか、4月から11月までアップされていなく、確認したくても出来なかった。

■ホームページへの児童が活動する写真の掲載することについては、昨今の状況を踏まえ慎重に掲載することが必要になったことが大きな要因です。ホームページに掲載した児童が活動する写真を悪用されることを懸念しており、慎重な対応になっています。これまでの、児童の名札や机の名前などにはモザイクをかけ個人が特定されることのないように配慮をしてきましたが、それだけでは対応しきれなくなっているのが現状です。今後、どのような形で児童の学校での様子を保護者の方に伝えていくのが適切なのかを模索しています。このような状況をご理解いただくようお願いします。

■給食の献立については、児童に献立表を配布するとの同時に更新をしていくようにします。ご心配をおかけしました。

【自由記述】

- ・子どもたちへの指導や学習等、いつもありがとうございます！働き方改革、人手不足の中、子どもたちのために尽力して頂きありがとうございます。先生方には感謝しかありません。引き続きよろしくお願いします。

■心温まるご意見をいただき、深く感謝申し上げます。私たち学校の教職員にとって、保護者の皆様が学校の状況を理解していただき、寄り添っていただけることは、どんなものにも代えがたい支えとなっております。「働き方改革」は、教職員が心身ともに健康で、最高のパフォーマンスを児童に届けるための大切なステップです。保護者の皆様の温かなご理解を力に変えて、児童が「明日も学校に行きたい」と思える環境づくりに、これからも家庭・地域の皆様と共に取り組んでまいりたいと思います。

- ・直接は関係ありませんが、運動会の駐車場警備員さんの誘導が悪く、早く切り上げたにも関わらず、車が出せませんでした。

■動会当日、駐車場の誘導においてご不便をおかけし、申し訳ありませんでした。早めにお帰りいただいたにも関わらず、スムーズに車を出すことができなかつたとのこと、ご迷惑をおかけしました。警備会社からも学校へ、警備員の誘導が不十分であったと、謝罪の連絡がありました。来年度は、警備員との打ち合わせを丁寧に実施し、安全かつスマーズな運営に努めてまいります。

- ・色々子どもに寄り添って考えて頂き感謝しています。ひとつだけいまだに給食の黙食をしているのをやめて頂きたいです。子どもの楽しみな時間の黙食をやめ、楽しく給食の時間を過ごさせて欲しいです。大人は会社や外食で話しながら食べている中、子どもにそうさせるのは可哀想な気がします。よろしくお願い致します。

■給食時間に係る貴重なご意見をありがとうございます。給食時間の児童への指導支援については、仲間と一緒に楽しく食事をするという側面と食事に集中して時間内に食べ終わることやよく噛んで誤嚥（ごえん）を防ぐといった側面、さらに新型コロナウイルス

やインフルエンザの感染状況に応じては感染拡大防止の側面で行っております。感染症の流行時ではない時期には、楽しく食べることと食事に集中することのバランスを考え指導をしています。場合によっては、食事に集中する手段として、おしゃべりをしないようにする指導も必要な時もあります。

- ・先生から子どものやる気を低下させるような発言があったり、いつも毎日のように教室で怒っているため、怒鳴り声を聞きたくないから、学校へ行きたくないと言う日が多くありました。一度相談はしたけど、特に改善は見られませんでした。うちの子だけがそう思ってるのかと思い、他の学年などいろんな子に聞いてみましたが、どの子もいつも怒っているという返事でした。伸び伸び楽しい学校生活を送ってほしいのですが、先生に対して嫌悪感をもっているため、親として困っています。残り3ヶ月ただただ楽しい、学校へ行きたいと言う気持ちで過ごしてほしいなと思います。

■学校として、教えていただいた状況を重く受け止めております。一度ご相談をいただきながら、改善を感じていただける状況に至らなかったことについても、深く反省しております。私たち教職員は、教育の場において「恐怖心や威圧感による指導」は、児童の主体性や自己肯定感を損なうものと考えております。児童の命に関わる緊急時を除き、指導が必要な場面では、毅然とした態度で子どもの心に届く言葉を選び、児童の納得のある指導を徹底するよう、全職員で改めて確認いたしました。子どもたちが「失敗しても大丈夫」「先生に認められている」と感じられる環境こそが、学校の学びの土台であると考えています。全ての児童が伸び伸びと自分らしさを發揮しながら成長できるよう、全校体制で取り組んで参ります。ぜひ今後もお子さんの小さな変化や不安のサインを、学校にお知らせください。学校とご家庭が信頼関係の中で手を取り合い、子どもたちの「明日も学校へ行きたい」という気持ちを育んでいけるよう、真摯に取り組んでまいります。